

## 令和6年度 学校経営計画書

|      |    |     |          |     |       |
|------|----|-----|----------|-----|-------|
| 学校番号 | 35 | 学校名 | 静岡城北高等学校 | 校長名 | 渡辺 賢一 |
|------|----|-----|----------|-----|-------|

### 1 スクール・ミッション

グローバル教育を推進する普通科・グローバル科の伝統校として、広い視野で地域の課題を発見し解決する探究活動を通して、将来の Shizuoka を支え、行動する人材の育成を目指す。

### 2 目指す学校像

#### (1) スクール・ポリシー

| グラデュエーション・ポリシー                   | カリキュラム・ポリシー   | アドミッション・ポリシー                       |
|----------------------------------|---|------------------------------------|
| 1 思いやりがあり、社会を支える一員として自律した行動が取れる人 | 1 探究的な問いを充実し、多様な人々と協働して問題解決に向かう「授業」                   | 1 主体的・協働的に学ぼうとする意欲のある者             |
| 2 自分の目標や課題を見いだし、失敗をおそれずに取り組む人    | 2 「地域の人々に笑顔を届けよう」をテーマに地域の課題を理解し、解決方法を探る「城北スマイルプロジェクト」 | 2 「高き希望（のぞみ）」を持ち、自己実現を目指す者         |
| 3 課題の解決に向け、自他の考えを吟味して、解決策を提示できる人 | 3 生徒の自律的な態度を育て、自己肯定感を高める「学校行事・生徒会活動・部活動」              | 3 グローバルな舞台で多様な人々と関わるための英語力を身に付けたい者 |

#### (2) スクール・ポリシー具現化の柱

- ア 生徒が主体的に自律した行動が取れるよう、生徒の行動をポジティブ・フォーカスで捉え、勇気づけのボイス・シャワーにより、自己有用感を感じ、自己肯定感を高められる教育活動を推進します。
- イ 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、教師による「授業改善」及び生徒による「学習改善」を充実します。
- ウ ICT を積極的に活用した教育活動を実現します。特に生徒が主体的に ICT を使う場면을創出します。
- エ 城北スマイルプロジェクトやグローバル科の行事を通して、地域やグローバルな舞台で活躍する人々と積極的に交流します。
- オ 世界中の様々な人々と協働していく力を身に付けるための英語授業を展開します。

様式第1号

3 本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

| 取組目標  | 達成方法（取組手段）   | 成果目標   | 担当部署   |
|-------|--|--|--|
| つなげる力 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○自己肯定感・自己効力感の醸成                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ポジティブ・フォーカスによる勇気づけ</li> <li>・教員による挨拶の率先垂範</li> </ul> </li> <li>○協働の原則を意識する                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・聞くとき傾聴、どんな意見も受け止める、相手の方を向いて話す。</li> </ul> </li> <li>○対話による生徒指導                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・新生徒心得の浸透</li> <li>・学年集会等</li> </ul> </li> </ul>                                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒を承認し励ますボイス・シャワーを実践する教員 90%</li> <li>・学校生活で自分に自信を持てたことがあった生徒 80%</li> <li>・クラスで友人と協力し合う関係を築けた生徒 95%</li> <li>・自分の考えを説明し表現する力が身についた生徒 85%</li> <li>・誰に対しても自分から先に挨拶できる生徒 90%</li> <li>・ルールやマナーを守っている生徒 100%</li> <li>・交通事故件数(R5 19)、交通違反者数(R5 108)が前年度より減少</li> <li>・いじめ認知件数(R5 0)、問題行動(R5 5)が前年度より減少</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>学年、教科</li> <li>学年、教科</li> <li>学年、教科</li> <li>学年、生徒</li> <li>生徒、学年<br/>生徒、学年</li> <li>生徒、学年</li> </ul> |
| みつける力 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○自己効力感(自分の強みを知り、自分ならできると思える)に基づく目標設定指導                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・進路シラバス見直し</li> <li>・多様な選抜方法への組織的対応</li> <li>・類型・科目選択指導</li> <li>・大学等公開授業、オープンキャンパス</li> <li>・総合的な探究の時間と進路指導の連携</li> <li>・スタディサポート(学びの基礎診断)</li> </ul> </li> <li>○探究活動を通し、課題を発見し解決していくための資質・能力の育成                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・探究的な学びを取り入れた授業</li> <li>・総合的な探究の時間</li> </ul> </li> <li>○読書指導の工夫</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の学力の強みと課題を把握している生徒 85%</li> <li>・3年間を見通した進路指導計画完成</li> <li>・適切な選抜方法を活用した生徒 90%</li> <li>・納得のいく類型、科目選択、進路選択ができた生徒 90%</li> <li>・オープンキャンパス等に参加した生徒 80%</li> <li>・総合的な探究の時間が、進路目標(志望学部)の具体化に役立ったと感じる生徒 80%</li> <li>・探究活動を通して、自分自身や社会の課題に気付き、改善または解決策に関心を持った生徒 75%</li> <li>・探究活動の指導に積極的に取り組む教員 80%</li> <li>・授業(教科学習)の中で探究課題を見だし、解決しようと取り組む生徒 75%</li> <li>・2か月に1冊以上の本を読んだ生徒 50%</li> <li>・「グローバル科の本」又はグローバルをテーマにした本を読んだ、もしくはグローバル課題探究に必要な論文やネット文献を読んだグローバル科の生徒 70%</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>学年、進路</li> <li>学年、教務、進路</li> <li>進路、学年</li> <li>研情、進路、学年<br/>研情、学年</li> <li>総図<br/>グロ</li> </ul>      |

様式第1号

| 取組<br>目標              | 達成方法（取組手段）  | 成果目標  | 担当部署  |
|-----------------------|---|---|---|
| ウ<br>行動<br>する<br>力    | <p>○失敗をおそれず取り組む生徒の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習マラソン</li> <li>・授業、学校行事、生徒会活動、部活動等</li> <li>・土曜講座、放課後講習</li> <li>・総合的な探究の時間</li> <li>・生徒の校外活動、各種コンクール等への参加の支援</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭学習時間 1年生:週 840分 2年生:週 1300分</li> <li>・国公立大学合格者数 60人(県内 30人)以上</li> <li>・土曜講座(1・2年:国・数・英、3年:5教科)、放課後講習(3年:5教科)の実施</li> <li>・1部活動1ボランティア(地域・社会貢献活動) 全部活動で実施</li> <li>・社会貢献活動(ボランティア活動)に参加した生徒 90%</li> <li>・ブロック大会や全国大会へ出場する部活動がある</li> <li>・撫子チャレンジを活用した生徒 20人以上</li> <li>・各種コンクール等への自主的な参加、出品者 20人以上</li> </ul> | <p>学年、進路</p> <p>進路<br/>部活動</p> <p>学年、研情</p> <p>部活動</p> <p>部活動、学年<br/>各分掌、学年</p> |
| エ<br>考<br>え<br>る<br>力 | <p>○教員による「授業改善」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的・対話的で深い学びの実現</li> <li>・探究的な学びを取り入れた授業</li> <li>・ICTの活用(教員が使う、生徒に使わせる)</li> <li>・総合的な探究の時間の充実</li> </ul> <p>○生徒の「学習改善」を促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習方法の紹介</li> <li>・考える力を深める問いや課題の提供</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的・対話的で深い学びを実践している教員 100%</li> <li>・授業に探究的な問いを取り入れている教員 100%</li> <li>・生徒が ICT 機器を活用する場面を設けている教員 100%</li> <li>・総合的な探究の時間で、友人と協働して課題の解決策を考えることができた生徒 90%</li> </ul> <p>・授業を通して考える力が深まったと感じる生徒 95%</p>  | <p>研情、教務</p> <p>研情、教務</p> <p>研情、教務<br/>教科、学年<br/>研情</p> <p>研情、教務、教科</p>         |
| オ<br>バ<br>ル<br>教<br>育 | <p>○Think Globally, Act Locally の実践</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各授業</li> <li>・総合的な探究の時間</li> <li>・グローバル活動の普通科への波及</li> </ul> <p>○英語力の伸長</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地球上の様々な問題が、自分の生活に関係していることを意識している生徒 80%</li> <li>・学んだことを生かし、地域社会の問題を解決したいと考える生徒 80%</li> <li>・グローバル活動に参加した普通科の生徒 50人以上</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オンライン英会話の全学年導入</li> <li>・卒業までに、CEFR B1(英検2級程度)取得生徒 グローバル科 100%、普通科 20%</li> <li>・卒業までに、CEFR B2(英検準1級程度)取得生徒 グローバル科 15%</li> </ul>        | <p>研情、教科</p> <p>研情</p> <p>グロ、学年</p> <p>英語科、グロ</p> <p>英語科、グロ</p>                 |

様式第1号

| 取組<br>目標                     | 達成方法（取組手段）   | 成果目標  | 担当部署                              |
|------------------------------|--|---|-----------------------------------|
| 安心<br>・<br>安全<br>な<br>学<br>校 | ○ <b>心理的安全性の醸成</b><br>・人権教育の推進<br>・特別支援教育の普及と推進<br>・通級指導の導入          | ・生徒に対する言葉遣い、呼称、授業のUD化に配慮している教員 100%<br>・自己を大切に、他者の人権を尊重することができた生徒 90%<br>・ケース会議等による組織的な支援で生徒の状況が改善（通級指導の円滑導入） | 全教職員<br><br>保健、学年<br><br>保健、生徒、学年 |
|                              | ○ <b>危機管理</b><br>・施設、設備の定期点検<br>・コンプライアンスの徹底                         | ・施設、設備の不具合に起因する事故、けが 0 件<br>・ヒヤリハット事例の共有<br>・「危機等発生時対処要項」の追加更新  | 事務室<br><br>全教職員<br>総図、保健          |
|                              | ○ <b>業務改善</b><br>・「やめる・へらす・かえる」の検討<br>・外部人材の活用推進<br>・校務への ICT 機器活用推進 | ・業務改善を実施した分掌・学年 100%<br>・専門家、保護者、地域人材の活用により負担が軽減したと感じる教員 50%<br>・ICT 機器活用による事務作業等の軽減                          | 全分掌<br>全教職員<br><br>全教職員           |

（記入上の留意点）

具体的な重点項目が外部の方にもわかりやすいよう、工夫して記載すること。